参考資料 1

平成２２・２３年度伊賀地域高等学校再編活性化推進協議会（協議のまとめ）

平成２４年３月

１　これまでの経緯

伊賀地域では中学校卒業者数の減少に対応するため、平成１６年度から協議会を設置し、平成３３年頃までの県立高等学校のあり方について検討を進めてきました。平成１８年度までの協議では、公聴会を通して広く意見を聞きながら、伊賀市内の専門高校３校を統合して、新総合専門高校を設置することをまとめるとともに、少子化が進む平成２７～３３年頃には伊賀地域の高校は４校程度となることもイメージ化しました。

平成２２年度に、平成１８年９月にまとめられた「協議のまとめ」（別添参照）とその後の県教育行政における当地域のこれまでの再編活性化について検証するとともに、中学校卒業者が大きく減少する平成２７年度以降の高等学校のあり方について検討するため、協議を開始しました。

２　現状と課題

伊賀地域の中学校卒業者数は平成２３年３月には1,６７３人でしたが、平成２７年３月には1,４４３人程度となり、約２３０人減少する見込みです。地域全体の学級数も、平成２３年度は３３学級でしたが、平成２７年度には２７～２８学級となることが予想され、このままでは４学級以下の小規模となる学校もできるため、学校としての活力の低下が懸念されます。

また、平成２３年４月に近畿大学工業高等専門学校が熊野市から名張市に移転し、平成２３年度入学者選抜では伊賀地域から前年比４０人増の４８人が入学するなど、新たな状況も生まれています。

３　これまでの再編活性化の検証

本協議会では、平成２１年度に設置した伊賀白鳳高校の生徒対象アンケートの集計結果や、伊賀市・名張市両市の小中学校長会やＰＴＡ連合会等への聞き取り調査の結果を資料として協議を行いました。主な内容は次のとおりです。

（１）伊賀白鳳高校については、７学級規模の学校になり、活性化がはかられた。アンケートでは、７割の生徒が伊賀白鳳高校に入学して満足していることがわかったが、所属する学科・コースを入学後にすべての学科・コースの学習内容を体験したうえで決定するシステムについてはさまざまな意見があり、引き続き検証していく必要がある。

（２）平成１８年９月の「協議のまとめ」と平成２０年３月の「三重県立高等学校再編活性化第三次実施計画」では、あけぼの学園高校は２学級を設置のコンセプトとしており、多様な生徒にきめ細かな指導をして成果をあげていることから、当面は存

続を求める声が多い。

（３）平成２０・２１年度に名張分科会を開催して、名張地域３校の活性化方針がまとめられたが、生徒や保護者に、これまで以上の特色化・魅力化が伝わっていない。

（４）「再編活性化基本計画」で適正規模としている１学年３～８学級は県全体の基準であり、伊賀地域においては学校運営の観点から、６学級を大きく上回ったり下回ったりしない規模が適当と考えられる。３～４学級では活性化は難しい。

４　伊賀地域の高等学校の今後のあり方

平成１８年度の「協議のまとめ」には、平成２７年度以降で伊賀地域の高等学校が４校程度になるイメージが記されており、この「４校案」をベースに、伊賀地域高等学校の今後のあり方について協議を行いました。主な内容は次のとおりです。

（１）１学年の学級数が４学級以下になると、教職員の人数が減り、設置できる選択科目の数が減るなど教育課程への影響があるほか、部活動や学校行事が沈滞し、学校の活力が失われる。このことを資料をもとに検証した。

（２）名張市内の普通科２校については、これまで違いが出せるように特色化の議論を進めてきたが、普通科であるという共通点に加え、進路状況もよく似ており、特色や独自性が出せているとはいえない。これら２校は、３～４学級規模だと同じようなレベルになり、中学生の進路選択幅の拡大には結びつかない。

（３）名張地域から津方面への進学が多く見られることから、名張の子どもたちが名張の高校で学ぶことのできる学校づくりが必要である。このことから、名張市の普通科２校については、それぞれの特色を併せ持つ７学級程度の規模の１校に統合して、進学に特化したクラスをつくるなど、名張市の子どもたちの幅広い進学ニーズに対応できる、活力ある高校を作った方がよい。

（４）伊賀市内には、名張市の高校に通学するために保護者の送迎が必要な地域があり、統合する学校については、交通の便がよく、通学しやすい場所に位置づけるべきである。

（５）平成２８年度に生徒数が一時的に増加することを考えると、統合には慎重であるべきである。また、普通科として１校に統合したとしても、もう１校を地域の学習ニーズにあったちがった形の高校とすることも考えられる。

これらのことから、統合についてはやむを得ないが、統合後の学校像を明確にするための時間が必要であるなどの意見はありましたが、

学習内容や進路状況等に共通点が多い名張桔梗丘高校と名張西高校については、平成２７年度を目途に７学級程度の１校に統合し、それぞれの特色を併せ持つ、生徒・保護者にとって魅力ある、活力ある学校づくりを行う

ことで協議がまとめられました。

平成18年9月

平成17年度伊賀地域高等学校再編活性化推進拡大協議会　協議のまとめ

第1　経緯

1．平成17年度協議会設置までの経緯

（1）「平成16年度協議会」の報告書提出（平成16年12月）

ア．理想の学び　伊賀地域の高等学校を一つの学びの場と捉え、多様な学びの高等学校をバランスよく配置。柔軟に学べる教育システムや将来的には一体となることも検討。

イ．農工商3校の統合　平成20年度を目途に新総合専門高校を設置

（2）伊賀地域における高等学校のあり方検討関係者会議（平成17年7月1日）

ア．目的：伊賀地域選出県議の呼びかけによる議員と協議会委員予定者の意見交換

イ．出席者：伊賀地域選出県議会議員4人、協議会委員予定者28人　　計32人

ウ．協議事項：伊賀地域における高校のあり方と今後の具体的な進め方について

エ．提起された課題等

(ｱ)報告書で提言されている「伊賀地域の高等学校の将来のあるべき姿」は、具体性にかけ、そこに到るまでの道筋が示されていない。

(ｲ)農工商だけを再編するのではなく、普通科も同時に検討すべきである。

(ｳ)既存の施設を利用した統合では意識は変わらず、理想の統合のためには新しい校舎の建設も検討すべきである。

(ｴ)農工商の3校統合ありきで県教委主導の議論が進められたのではないか。

(ｵ)地域を巻き込んだ議論が不十分であり、問題意識が共有されていない。

⇒　再編活性化は県教委がトップダウンで進めるのではなく、地域の声を広く聞くとともに、時間をかけて議論すべきである。

2．平成17年度協議会における協議経緯

（1）平成17年7月1日の伊賀地域における高等学校のあり方検討関係者会議で提起された課題等を踏まえ、平成17年8月12日に地域の有識者やPTA代表、市教育長、小中県立学校長代表、教員代表の計19名からなる第1回協議会を開催し、座長として四日市大学総合政策学部教授岩崎恭典氏を選出した。そして、今後、上野地区と名張地区の分科会で伊賀全体を視野に入れつつ地域固有の課題についても協議を行い、協議会でその意見をまとめることとした。

（2）協議会とは別に、中学校と高等学校の意思疎通等を図るため、伊賀地域の全中学校長と高等学校長の意見交換会が9月と11月に2回開催され、高校再編活性化についての意見交換がなされた。

（3）上野と名張の分科会は、9月～11月にかけてそれぞれ2回ずつ開催され、「理想の学び」のイメージや、望ましい学校・学科配置について意見交換した後、そこに到るプロセスとして、普通科高校や専門高校の再編、あけぼの学園高校、昼間部併置の定時制のあり方などについて協議を行った。その協議結果を今後開催の協議会に報告し、諸課題についてさらに検討を加えることとした。

（4）第2回協議会は平成18年3月14日に開催され、両分科会から協議概要の報告があった後、具体的な協議を行った。特に、最も志願者数の減少が大きい上野農業高校の再編について、農工商の統合だけでなく、上野高校の分校案、農業科案や普通科・総合学科を併設する案についても協議がなされた。あけぼの学園高校については、半数の生徒が名張地域から通学をしている状況もあり、また、同じ総合学科ということから、名張高校との統合も視野に入れて検討した。

（5）第3回協議会は平成18年4月11日に開催され、賛否が分かれて一致しない点もあったが、あくまでも現在検討中の再編案として、次の内容で広く保護者等に意見を聴くこととし、次回、その具体的な方法等を検討することになった。

①上野農業高校は商工と統合し、新総合専門高校としてスケールメリットを生かせる形に再編する。

②あけぼの学園高校は名張高校との統合も視野に入れて検討していく。

③上野地域に新普通科高校を設置して普通科志向に対応し、当面、3校体制とする。

④名張地域の3校は当面維持するとともに、普通科の実績を上げるための学科改編や学校の魅力化を検討する。

（6）第4回協議会は平成18年5月11日に開催され、「広く意見を聴く会」で説明する協議会での検討案について協議を行った。特に新普通科高校設置の可否や、平成23年度を目途とした学校数について活性化の観点から議論がなされた。また、名張地域から他地域への流出を防ぐための手立てとして、学科改編や特色化についても協議したほか、「広く意見を聴く会」の開催にあたっての資料や周知方法等の具体的な検討を行った。

（7）平成18年6月26日、27日、30日の3回にわたり、伊賀地域の児童・生徒の保護者等を対象として「広く意見を聴く会」を開催し、高校を取り巻く状況の理解を深めてもらうとともに、協議会で検討している再編案について広く意見を聴取した。

参加者は延べ242人であったが、新普通科高校の設置に対する疑問や危惧する意見、新総合専門高校に期待する意見、あけぼの学園高校の存続を求める意見、名張地域の高校の特色化を求める意見など、アンケートも含めて多くの意見が出された。

（8）第5回協議会は平成18年9月5日に開催され、「広く意見を聴く会」の結果を踏まえて「平成17年度協議会のまとめ」について検討を行い、今回をもって平成17年度協議会としての協議を終了することとした。

第2　主な論点

1．理想の学びについて

平成16年度協議会の報告書において提言されている理想の学びにおける「一つの学校」という考え方について、協議会・分科会の双方で検討を行った結果、その求めるべき理念は共有されたが、学校運営などにおいて課題が多く、時間をかけながら具体化に向けての努力が必要であるという意見が大勢を占めた。

したがって、将来の理想の姿についての理念の周知とともに、生徒、保護者、地域住民の意向も踏まえながら、今後も検討を続けていくことが必要であろう。

2．普通科高校の再編について

旧阿山郡などから長時間をかけて名張の普通科高校へ通学する課題を解消するとともに、中学生や保護者の普通科志向や上野商業高校普通科を発展させたものとして上野地域に新

普通科高校をつくることが複数の委員から提案されたものの、そのコンセプトと学習内容をどうするかという課題が残されている。

一方、委員の中には新普通科高校の新設を危惧する意見もある。その主な理由としては、子どもの減少からみて、近い将来に無くなる学校となることが予想されること、したがって生徒が集まらない可能性や、学校関係者も力が入りにくいこと、設置のコンセプトが不明確であることなどである。

また、子どもたちは上野と名張の両地域で行き来しており、その動きが変わらない限り、生徒が集まらない可能性があることや、上野高校との新たな格差が発生したり、伊賀地域全体の高校が小規模化して活力が失われる可能性なども指摘されている。

こうした新普通科高校を危惧する同様の意見は、「広く意見を聴く会」においても多く出された。

なお、将来の子どもの数や学級数の予測において、伊賀地域から他地域への流出の状況は社会経済状況等により変動する要素を持っており、また、伊賀市における外国人生徒の増加といったことも勘案すれば、新普通科高校が無くなるとは限らないとの考え方もある。

３．専門高校の再編について

農業、工業、商業３校の統合については、平成16年度協議会の報告書で提言され、それを受ける形で県の高校再編活性化第二次実施計画にも反映されているが、各専門高校では定員割れによる活力低下や学級数減による学校運営の困難さが次第に増してきており、学校現場からは早急に再編して活性化を望む意見が出されている。「広く意見を聴く会」においても再編を進めることに賛同する意見が多かった。

農工商を統合することでスケールメリットを生かして学校の活性化を図り、子どもたちの多様なニーズに対応した教育を提供する新総合専門高校をつくることができる。そしてそれは伊賀の特色ある産業の発展とその人材育成にも寄与することが期待できる。

そのため、新総合専門高校の学級規模と学科編成、特色ある教育課程の編成、施設設備の整備、農業実習地の管理と生徒の移動などが課題とされており、早急に具体的な検討を行う必要がある。

また、教育内容や教育システムを検討する際、伊賀地域独自の特色のある学校づくりや、積極的な外部講師の招聘についても検討を加えるべきである。

４．あけぼの学園高校の再編について

あけぼの学園高校は、名張地域から生徒の半数が通学している状況にあり、また、学年２学級規模の小規模な学校で定員を満たせないときもあることから、同じ総合学科の名張高校との統合を視野に入れて検討することが考えられる。

しかし、同じ総合学科というだけで、両校の系列やコンセプトを統合できるかどうか、あけぼの学園高校が果たしている役割をどのように引き継いでいくのか、今ある施設・設備をどうするかなどの課題が残されている。

一方、「広く意見を聴く会」では、集団生活に馴染めない不登校気味の生徒も含め、多様な生徒たちにきめ細やかな指導ができる学校であり、もう少し存続してほしいといった意見が出されている。

５．名張地域の高校再編について

名張地域の３校については、伊賀地域、特に名張地域からの流出を食い止め、学校の特

色化をはかるため、普通科高校に特進コースの設置や中高一貫教育といった意見が出されている。

「広く意見を聴く会」においても、保護者からは名張 3 校の特色が分かりにくく、より一層の魅力化を図るため、特進クラスの設置という意見が複数出された。

一方、伊賀地域外の高校へ流出する原因には様々な要素があり、特進対応だけがその手立てではないという意見もある。

今後は県立高等学校再編活性化実施計画（第一次、第二次）を踏まえ、名張西高校の英語科、情報科のあり方についても検討を加える必要がある。また、今後の生徒数の減少を見据えつつ、名張地域の普通科高校の統合も視野に入れて活性化策を検討していかなければならない。

６．昼間定時制について

平成 16 年度協議会の報告書で提言されている上野高校と名張高校にある夜間定時制を統合して新たに昼間部定時制を持った高校を設置することについて、伊賀地域には昼間部定時制及び通信制を併せ持つ教育特区で認定された学校もあり、それを越えるだけのニーズは現段階では見られないことなどから、特に設置を求める意見は出されなかった。

第３　平成１７年度協議会の考え方（結論）

平成 17 年度協議会は、これまで 1 年あまりの間に、協議会を 5 回、上野・名張に分かれて分科会を 2 回ずつ、地域の保護者等から直接意見を聞く「広く意見を聴く会」を 3 回開催してきた。

協議では、「理想の学び」の姿を見据えつつ、中学校卒業（予定）者数の減少がひとまず横ばいになる平成 23 年度を目途として再編のあり方を検討してきたところである。

協議の主な論点は、「第 2 主な論点」に掲げたとおりであるが、小学校就学前の子どもが中学校を卒業する平成 27 年度以降はさらに減少が進むことが考えられ、現在 0 歳の子どもが中学校を卒業する平成 33 年頃には、伊賀地域の必要学級数は 28 学級程度になると予想される。したがって、約 10 年～15 年後には、施設設備の耐用年数などの課題も踏まえつつ、伊賀地域の高校を 4 校程度に再編し、学校の活性化を図ることが必要になってくると考えられる。

そうした見通しのもと、協議会での議論を重ね合わせると、「図表１」のようにイメージすることができ、4 校に至る過程の平成 23 年度頃は（A）（B）の両案が考えられる。

当協議会としては、これまでの精力的な協議や「広く意見を聴く会」での意見・要望を踏まえ、あえて一つに集約することはせず、両論を併記して提案するものである。

なお、普通科高校の再編及びあけぼの学園高校の再編については、それぞれ賛否が分かれ意見の一致をみないところであるが、専門高校の再編については、協議会や「広く意見を聴く会」の議論においても、分校となる前のできる限り早い時期に農工商を統合して新総合専門高校の設置を進める意見で概ね一致しているところである。当協議会としては、子どもたちに魅力のある生き生きとした新総合専門高校になるよう、平成 21 年度開校を目途として農工商 3 校の再編を推進することを県教育委員会に求めるものである。

県教育委員会及び各県立学校においては、協議会でのこれまでの議論と提案を十分考慮し、さらに地域から信頼される魅力ある高等学校をめざして、特別支援教育のあり方も含めた伊賀地域高等学校の再編活性化を推進されるよう期待する一方、当協議会は今後とも理想の学びの実現に向けて検討を重ねていくものとする。

伊賀地域高等学校　再編活性化イメージ

現在　8校

平成18年度　39学級

- 上野高校 8cl　普通科
- 上野農業高校 2cl　農業科
- 上野工業高校 4cl　工業科
- 上野商業高校 5cl　普通、商業、家庭、福祉　(2)　(1)　(1)　(1)
- あけぼの学園 2cl　総合学科
- 名張西高校 7cl　普通、英語、情報　(5)　(1)　(1)
- 名張桔梗丘高校 6cl　普通科
- 名張高校 5cl　総合学科

H21～H23　6校

平成21年度　36学級程度
平成23年度　34学級程度

【(A) の考え方】
・普通科志向への対応(新普通科高校の設置)
・専門教育の多様化に対応
(新総合専門高校の設置)
【課題】
・1校あたりの学級数が少なくなり、学校の活性化が図れない。
・新普通科高校のコンセプトとその存続

★新普通科高校の設置
★農工商三校の統合と
新総合専門高校の設置
★総合学科高校の再編

(A)
- 上野高校 6cl程度
- 新総合専門高校 6cl程度
- 新普通科高校 6cl程度
- 名張西高校 6cl程度
- 名張桔梗丘高校 5cl程度
- 名張高校 5cl程度

★農工商三校の統合と
新総合専門高校の設置

【(B) の考え方】
・切磋琢磨できる学習環境
・多様な生徒に対するきめ細かい対応
(あけぼの学園高校の存置)
・専門教育の多様化に対応
(新総合専門高校の設置)
【課題】
・新総合専門高校の教室の増設
・学級数の多い新総合専門高校の学校運営

(B)
- 上野高校 8cl程度
- 新総合専門高校 7cl程度
- あけぼの学園高校 2cl
- 名張西高校 6cl程度
- 名張桔梗丘高校 6cl程度
- 名張高校 5cl程度

H24～H26

平成24年度　33学級程度
平成26年度　33学級程度

再編活性化(例)
・系統的な専門教育の展開
・単位制、総合選択制により学科枠を越えた多様な学びも可
・企業や地域等との連携

再編活性化(例)
・進学、就職の出口を保障
・基礎基本の徹底とキャリア教育
・スポーツ、文化活動にも重点

★普通科高校の再編

★普通科高校の再編
★総合学科高校の再編

再編活性化(例)
・系統的な専門教育の展開
・単位制、総合選択制により学科枠を越えた多様な学びも可
・企業や地域等との連携

H27～H33　4校

平成27年度　30学級程度
平成33年度　28学級程度

【4校の考え方】
・子どもたちの一人ひとりを尊重した教育
・切磋琢磨できる学習環境
・単位互換、連携による一体的な学びと学校間格差の解消
【課題】
・単位互換、連携における子どもたちの移動
・特別支援教育のあり方

- 普通科高校A　8cl程度
- (単位互換・連携)
- 総合専門高校　6cl程度
- 普通科高校B　8cl程度
- (単位互換・連携)
- 総合学科高校　6cl程度

再編活性化(例)
・きめの細かい進路指導
・教科を通した人づくり
・単位制

再編活性化(例)
・系統的な専門教育の展開
・単位制、総合選択制により学科枠を越えた多様な学びも可
・企業や地域等との連携

再編活性化(例)
・きめの細かい進路指導
・文理特進コースの設置
・中学校や大学との連携
・単位制

再編活性化(例)
・個性を伸ばすきめの細かい学習指導と進路指導
・多様な系列による興味・関心の高い多様な科目の提供

（第３回伊賀地域高等学校活性化推進協議会資料）

参考資料
2

県立名張桔梗丘高等学校と県立名張西高等学校の統合の時期について

平成２４年８月
三重県教育委員会

伊賀地域高等学校再編活性化推進協議会では、平成２２年度から平成２３年度にかけての協議を踏まえ、県立名張桔梗丘高等学校と県立名張西高等学校を平成２７年度を目途に統合することを平成２４年３月に取りまとめました。

この統合の時期について、本年５月に市民等を対象に実施した説明会での意見や、平成２４年度の伊賀地域高等学校活性化推進協議会における統合後の学校像に係る協議状況等を踏まえて検討した結果、現中学校３年生が安心して進路選択できることを重視して、下記のとおりとします。

記

１　県立名張桔梗丘高等学校と県立名張西高等学校の統合については、平成２７年度は行わないこととします。

２　中学校卒業者の減少に伴い学校が小規模になると、学校の活力が失われるため、できる限り早く統合することが必要と考えられることから、統合の時期については、統合後の学校像や設置場所を明らかにしていく中で、今年度中に決定します。

参考資料3

伊賀地域の県立高等学校のあり方について

平成２４年８月
三重県教育委員会

１　基本的な考え方

平成２４年３月の「協議のまとめ」を踏まえ、名張桔梗丘高等学校と名張西高等学校を統合して、それぞれの特色を併せ持つ、生徒・保護者にとって魅力ある、活力ある学校づくりを行うこととします。新しい学校の学校像については、地域の高等学校における課題や伊賀地域全体の中での各高等学校の役割を踏まえて、検討することとします。

２　地域の高等学校に関する課題

（１）特に名張地域では、地元の高等学校に進学せず、大学への進学等を目的として、上野地域、津地域や県外の高等学校へ進学する生徒が多く見られます。

（２）少子化が進行する中で、地域全体における学科・コースの適正な配置のあり方について、引き続き検討し、明らかにしていく必要があります。

（３）発達障がいなど、特別な支援を必要とする子どもたちを県立高等学校にどのように受け入れ、支援していくか、引き続き検討し、明らかにしていく必要があります。

３　地域の高等学校に関する課題等への対応

（１）進学希望を実現する学校づくり

名張地域の中学校卒業者(平成２３年度卒)の進路状況をみると、津市内の普通科高校への進学者が６０人を超えており、県外の私立高校への進学者も４０人近くになっています。名張地域の生徒が名張地域の高等学校で学ぶことができるようにするためには、国公立大学等への進学ニーズに対応し、進学希望をより多く実現できる学校づくりを行うことが必要です。

いわゆる難関大学等への進学ニーズに対応するためには、受験に必要な多様な教科・科目を開設し、指導を充実させる必要上、１学年７～８学級の規模が必要です。名張桔梗丘高等学校と名張西高等学校を統合する際に、使わなくなる校地に異なるニーズに応える学校をもう１校設立すべきという意見がありますが、小規模であってももう１校設置することは、統合して開校する学校の規模を小さくすることになります。このことは、「協議のまとめ(平成２４年３月)」に書かれた、統合する新しい学校を７学級程度として、活力ある学校づくりをすることと、相容れないものになります。

（２）伊賀地域における学科別の募集定員の割合

平成２４年度の県立高等学校入学定員における伊賀地域の普通科の割合は５３．１％です（参考資料４－１）。これには理数科や英語科などの「普通科系専門学科」も含まれています。当地域には、総合学科の高校が、あけぼの学園高等学校（２学級）と名張高等学校（５学級）の２校あり、 総合学科の割合が他の地域と比べて高くなっています。

県立高等学校の普通科の生徒の卒業後の進路は多様であり、大学等への進学を中心とした普通科もあれば、専修学校への進学や就職者の多い普通科もあります。参考資料４－２では、大学及び短期大学への進学者が６０％以上の普通科を「普通科①」、６０％未満の普通科を「普通科②」として分類しました。伊賀地域の普通科の高等学校は３校とも「普通科①」に分類され、「普通科②」にあたる普通科の高等学校はありません。

これまで伊賀地域では、他地域における「普通科②」にあたる部分を、総合学科に改編して、名張高等学校のように大学進学から就職まで幅広く対応できる系列を設けたり、あけぼの学園高等学校のように専修学校進学や就職に対応できるように実習科目の多い系列を設けたりすることによって、学習環境の充実をはかってきています。

このことから、伊賀地域において、数字上は普通科の割合が比較的低く、総合学科の割合が比較的高くなっていることは、学習環境の充実をはかってきた結果であるということができます。他方で総合専門高校として開校した伊賀白鳳高等学校は、職業系専門学科を設置し、地域における重要な役割を果たしています。

こうしたことから、「協議のまとめ（平成２４年３月）」にしたがって、地域の高等学校の今後のあり方を検討していきます。

（３）障がいを持つ生徒等さまざまな支援を必要とする生徒が県立高等学校で学ぶことができる環境づくり

学校教育法第８１条では、高等学校に特別支援学級を設置できる旨が規定されていますが、高等学校の学習指導要領が適用されることとなっており、弾力的な教育課程の編成ができないなど、条件整備が十分整っているとはいえない状況です。

現在、公立高等学校において特別支援学級を設置している都道府県はありません。大阪府においては、府立高校９校と市立高校２校で知的障がいを持つ生徒を対象とする「自立支援コース」を設置していますが、１校あたり２人程度で、入学後は通常の学級での学習を基本としています。なお、このコースは発達障がいには対応していません。

名張地域において障がいを持つ生徒等さまざまな支援を必要とする生徒も含め地域の生徒たちが地域で学べる学校づくりが必要との意見があることから、今後、このことについてどのような対応を取り得るか、引き続き調査、検討していきます。

（４）統合後の学校の設置場所

平成２３年度の協議では、「交通の便がよく、通学しやすい場所に位置づけるべきである」などの意見が出されていますが、新しく設置する学校の具体像との関連において、今後検討していく必要があります。

４　各高等学校のあり方について

伊賀地域において、大学等高等教育機関への進学ニーズに対応する学校、職業に関する専門的な知識と技術を習得できる学校、多様な選択科目から進路希望や適性に応じて学びたい科目を主体的に選択して学べる学校を適正に配置し、多様な学習ニーズに対応して学力や社会への参画力を育成することを通じて、県立高等学校の活性化を図っていきます。

なお、伊賀地域における適正な学校規模については、これまでの協議会での協議等を踏まえ、各学校のコンセプトを生かし続けるため、２学級規模で開校したあけぼの学園高等学校を除き、５学級以上とします。

（１）上野高等学校

普通科６学級、理数科１学級を設置しており、生徒の大半が四年制大学等への進学を希望しています。今後も教育活動に発展的、探究的な内容を取り入れるとともに、多様な教科・科目の授業を開設し、生徒が互いに切磋琢磨できる学習環境を整えることなどにより、進路希望の実現に努める必要があります。

（２）伊賀白鳳高等学校

平成２１年度に工業・農業・商業・福祉に関する学科を設置する総合専門高校として開校し、各専門分野の知識・技術の習得を目指すとともに、勤労観・職業観を育み、地域の産業に貢献する人材を育成しています。平成２２～２３年度の協議会では、７学級規模の学校となって活性化がはかられたが、入学後に全学科・コースの学習内容を体験したうえで所属する学科・コースを決定するシステムについては引き続き検証する必要があることが、これまでの活性化についての検証としてまとめられました。今後は、このシステムについての検証を進め、より適切なあり方について検討します。

（３）あけぼの学園高等学校

平成１０年度に伊賀高校普通科を改編し、２学級規模の総合学科の高校として開校しました。「情報教養」「美容服飾」「製菓調理」「健康福祉」の４つの系列（注1）を置き、生徒は自己の興味・関心や将来の職業選択等を考慮して授業を選択しています。平成２２～２３年度の協議会では、少人数の中で多様な生徒にきめ細かな指導を通して成

果を上げていることから当面は存続が望ましいことが、これまでの活性化についての検証としてまとめられました。

注１　（総合学科の）系列：　総合学科において、多様な教科・科目（普通科目・専門科目・学校設定科目など）を系統的あるいは体系的に学習できるための、教科・科目のまとまりをいう。

（４）名張高等学校

平成１４年度に普通科・情報ビジネス科・会計科・生活デザイン科の４学科を総合学科に改編しました。「ＩＴ」「スポーツ・健康福祉」「ベンチャービジネス」「国際文化・国際科学」「生活デザイン」「芸術メディア」の６つの系列を設置し、多様な選択科目を設けることによって、大学･短期大学進学、専修学校進学や就職等の多様な進路希望に対応できる学校となっています。今後も、総合学科の特色を活かした学校の活性化を進めます。

（５）名張新高等学校（仮称）

名張地域では、地元の高等学校に進学せず、大学への進学等を目的として、上野地域、津地域や県外の高等学校へ進学する生徒が多く見られるため、こうした進学ニーズに対応できる高等学校が名張市内に必要との意見があります。このことから、名張桔梗丘高等学校と名張西高等学校が統合してできる高等学校は、国公立大学等への進学希望を多く実現できる学校であることが必要な要素の一つとなります。

一方で、現在の名張桔梗丘高等学校と名張西高等学校の卒業者の進路は、四年制の私立大学への進学が多いですが、専門学校への進学や就職をする生徒も一定数いることから、新しい高等学校は幅広い学習ニーズの生徒が学ぶ学校となることが考えられます。

このことから、新しい高等学校は、普通科をベースとして、国公立大学等への進学希望の実現に取り組むコース（または学科）を設置することに加えて、スケールメリットを生かして多様な選択科目を設置することなどにより、幅広い学習ニーズに応える学習環境をつくることが望まれます。

加えて、これまでの２校の良さを生かしながら、例えば、英語運用能力の育成や、タブレットＰＣの活用等ＩＣＴを活用した先進的な授業に取り組むなどの学校像が考えられます。（「名張新高等学校概要（案）」参照）

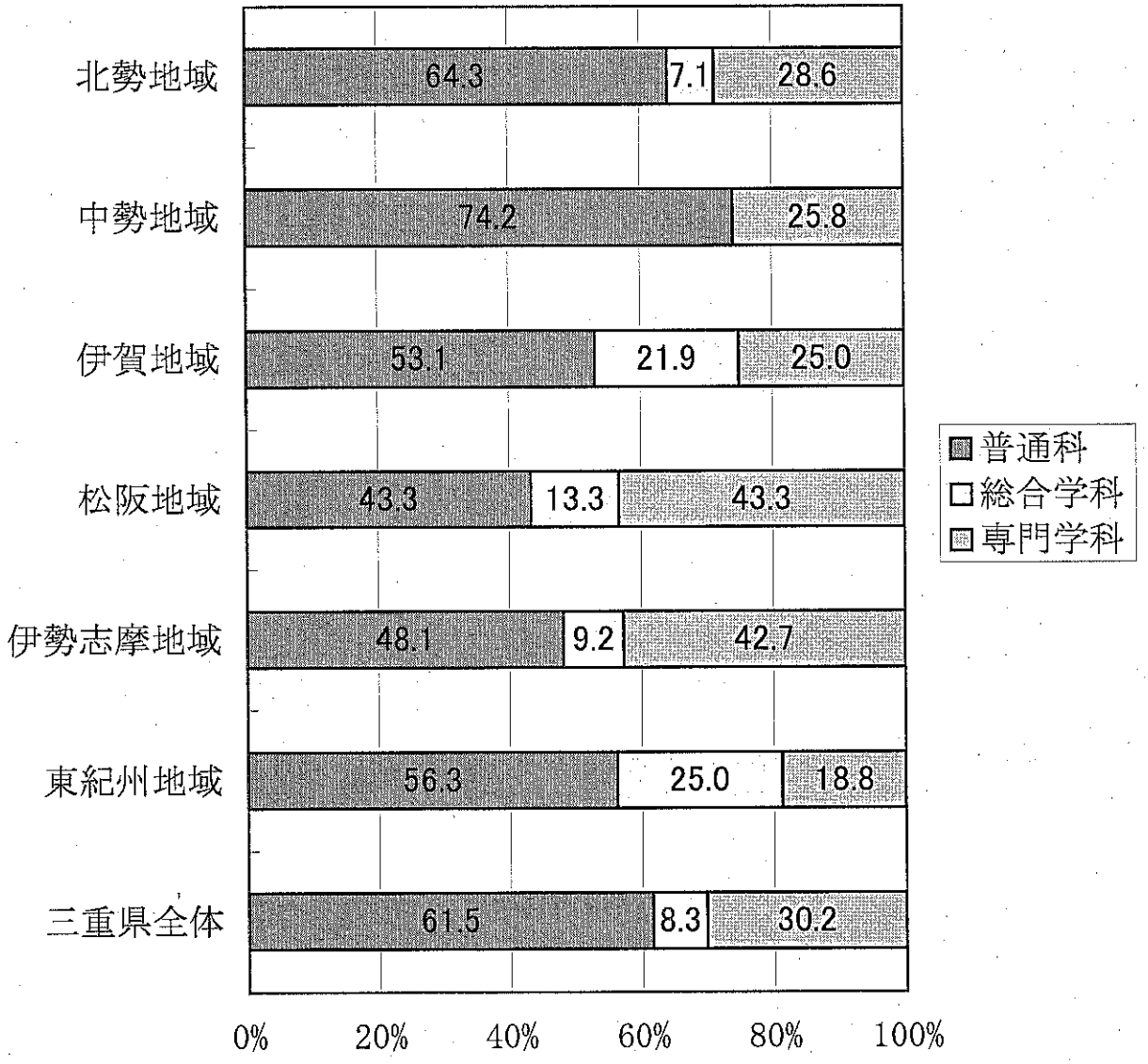
学科別募集定員の割合（三重県各地域の比較）

参考資料4－1

H24.7 教育総務課

	普通科	総合学科	職業系 専門学科	合計
北勢地域	64.3	7.1	28.6	100.0
中勢地域	74.2	0.0	25.8	100.0
伊賀地域	53.1	21.9	25.0	100.0
松阪地域	43.3	13.3	43.3	100.0
伊勢志摩地域	48.1	9.2	42.7	100.0
東紀州地域	56.3	25.0	18.8	100.0
三重県全体	61.5	8.3	30.2	100.0

※ 平成24年度の公立高校募集定員による比較



学科別募集定員の割合（三重県各地域の比較）

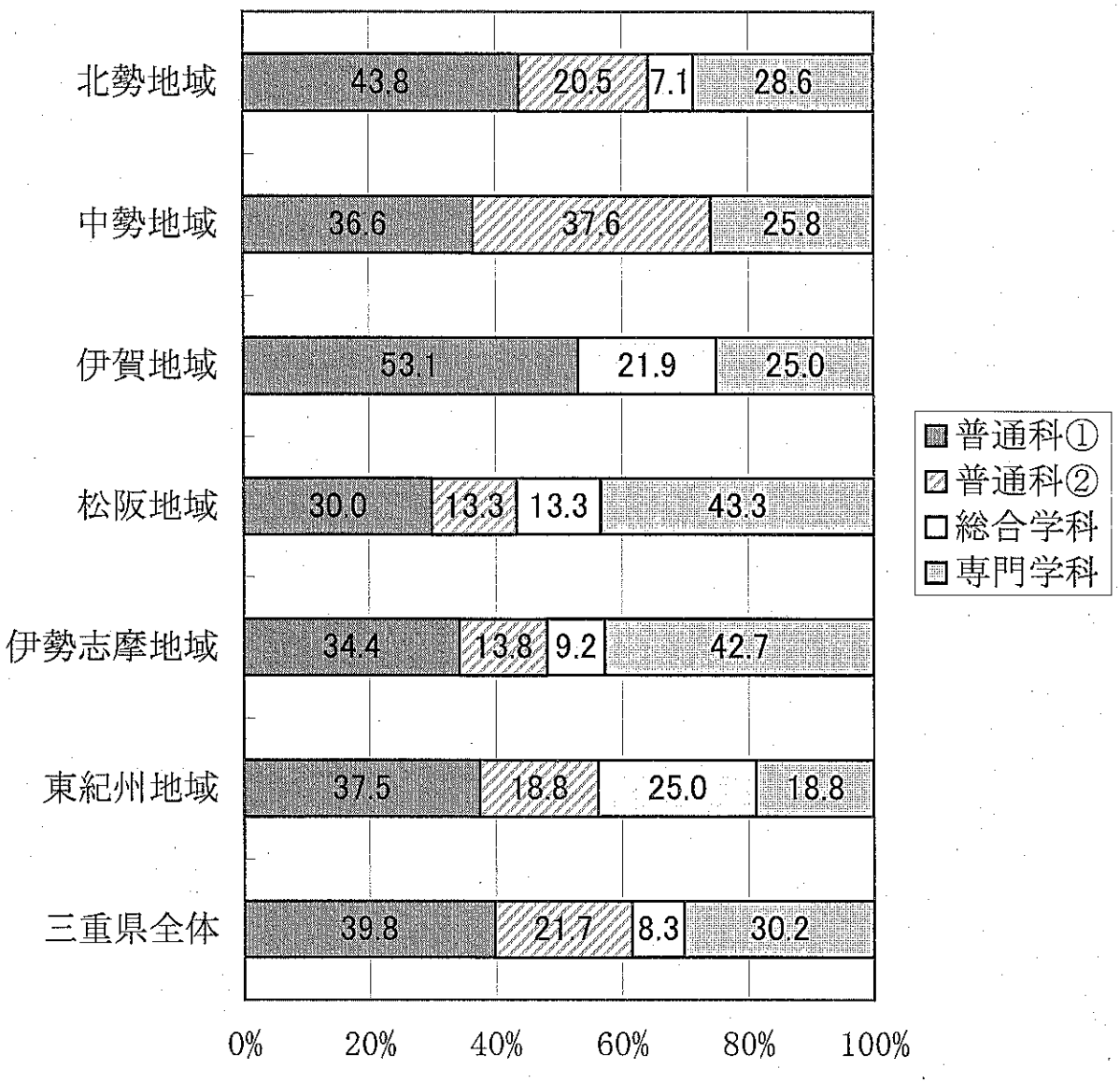
参考資料4－2

H24.7 教育総務課

	普通科①	普通科②	総合学科	職業系専門学科	合計
北勢地域	43.8	20.5	7.1	28.6	100.0
中勢地域	36.6	37.6	0.0	25.8	100.0
伊賀地域	53.1	0.0	21.9	25.0	100.0
松阪地域	30.0	13.3	13.3	43.3	100.0
伊勢志摩地域	34.4	13.8	9.2	42.7	100.0
東紀州地域	37.5	18.8	25.0	18.8	100.0
三重県全体	39.8	21.7	8.3	30.2	100.0

※　平成24年度の公立高校募集定員による比較

※　普通科①は大学及び短期大学への進学者が卒業者の６０％以上の普通科
　　普通科②は大学及び短期大学への進学者が卒業者の６０％未満の普通科



参考資料

5

伊賀地域公立中学校卒業者の進路状況（平成２４年３月卒業者）

		伊賀市		名張市		伊賀地域合計	
		人　数	割合（%）	人　数	割合（%）	人　数	割合（%）
伊賀地区県立高校	上野	185	21.2	85	12.0	270	17.1
	伊賀白鳳	222	25.5	37	5.2	259	16.4
	あけぼの学園	49	5.6	23	3.3	72	4.6
	名張	54	6.2	110	15.6	164	10.4
	名張桔梗丘	75	8.6	107	15.1	182	11.5
	名張西	112	12.9	112	15.8	224	14.2
	小計	697	80.0	474	67.0	1171	74.2
他地区県立高校	津	10	1.1	45	6.4	55	3.5
	津西	3	0.3	21	3.0	24	1.5
	上記以外　※1	30	3.4	11	1.6	41	2.6
	小計	43	4.9	77	10.9	120	7.6
私立高校	鈴鹿	4	0.5	3	0.4	7	0.4
	高田	9	1.0	5	0.7	14	0.9
	三重	4	0.5	7	1.0	11	0.7
	日生第一	8	0.9	8	1.1	16	1.0
	上記以外　※2	8	0.9	9	1.3	17	1.1
	小計	33	3.8	32	4.5	65	4.1
県外全日制	国公立	5	0.6	7	1.0	12	0.8
	私立	16	1.8	37	5.2	53	3.4
	小計	21	2.4	44	6.2	65	4.1
県立定時制・通信制	上野	10	1.1	0	0.0	10	0.6
	名張	1	0.1	5	0.7	6	0.4
	上記以外・通信制	6	0.7	3	0.4	9	0.6
	小計	17	2.0	8	1.1	25	1.6
私立定時制・通信制（広域・県外含む）	ウィッツ青山	0	0.0	1	0.1	1	0.1
	徳風	2	0.2	0	0.0	2	0.1
	上記以外　※3	8	0.9	9	1.3	17	1.1
	小計	10	1.1	10	1.4	20	1.3
県外定時制	山辺高校山添分校	6	0.7	1	0.1	7	0.4
高専	鈴鹿高専	6	0.7	3	0.4	9	0.6
	鳥羽商船	0	0.0	1	0.1	1	0.1
	近大高専	14	1.6	34	4.8	48	3.0
	県外高専	1	0.1	3	0.4	4	0.3
	小計	21	2.4	41	5.8	62	3.9
特別支援	伊賀つばさ学園	10	1.1	10	1.4	20	1.3
	特別支援聖母の家	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	県外特別支援	0	0.0	0	0.0	0	0.0
		10	1.1	10	1.4	20	1.3
その他	就職	4	0.5	0	0.0	4	0.3
	上記以外　※4	9	1.0	10	1.4	19	1.2
	小計	13	1.5	10	1.4	23	1.5
		871	100.0	707	100.0	1578	100.0

※１　桑名１、いなべ総合学園２、四日市工業１、四日市中央工業６、四日市商業１、菰野２、飯野３、白子２、石薬師１、稲生１　亀山３、津商業２、津東３、久居１、久居農林２、松阪工業１，松阪商業１、相可１、昴学園６、紀南１

※２　津田学園１、海星１、セントヨゼフ女子学園２、皇學館１、伊勢学園１、ウィッツ青山８、日生第二３

※３　英心５、県外１２

※４　専修学校３、その他（進学待機、求職中、無業等）１６

参考資料 6

平成２４年度伊賀地域高等学校活性化推進協議会 委員

平成24年7月現在

区　　分	所　属　等	氏　　名
学識経験者（１名）	高田短期大学オフィス人材育成学科　准教授	杉浦 礼子（すぎうら れいこ）
有識者（４名）	中外医薬生産株式会社　代表取締役社長	田山 雅敏（たやま まさとし）
	伊賀上野観光協会　会長	廣澤 浩一（ひろざわ こういち）
	亀井商事	中谷 幸雄（なかたに ゆきお）
	あす建築事務所	櫻井 勝一（さくらい かついち）
ＰＴＡ関係者（５名）	伊賀市ＰＴＡ連合会　会長 （伊賀市立河合小学校ＰＴＡ）	中村 勝剛（なかむら まさたけ）
	名張市ＰＴＡ連合会　会長 （名張市立赤目中学校ＰＴＡ）	森岡 敬一（もりおか けいいち）
	伊賀地区県立学校ＰＴＡ協議会　会長 （名張西高等学校ＰＴＡ会長）	吉森 惇志（よしもり あつし）
	伊賀市内県立学校ＰＴＡ代表 （伊賀白鳳高等学校ＰＴＡ会長）	村脇 弘司（むらわき ひろし）
	名張市内県立学校ＰＴＡ代表 （名張桔梗丘高等学校ＰＴＡ会長）	服部 仁志（はっとり ひとし）
市教委教育長（２名）	伊賀市教育委員会　教育長	味岡 一典（あじおか かずのり）
	名張市教育委員会　教育長	上島 和久（うえしま かずひさ）
小中学校長代表（２名）	（伊賀市小中学校長会　代表） 伊賀市立　阿山中学校　校長	藤林 敏治（ふじばやし としはる）
	（名張市小中学校長会　代表） 名張市立　北中学校　校長	西山 嘉一（にしやま よしかず）
教員代表（２名）	（小中学校教員　代表） 名張市立梅が丘小学校　教諭	林 辰久（はやし たつひさ）
	（高等学校教員　代表） 名張高等学校　教諭	森下 大介（もりした だいすけ）
県立学校長代表（３名）	上野高等学校　校長	土肥 稔治（どひ としはる）
	名張高等学校　校長	松井 慎治（まつい しんじ）
	特別支援学校伊賀つばさ学園　校長	杉生 彰（すぎお あきら）

計１９名

（事務局）　県教育委員会事務局 教育総務課、高校教育課

参考資料 7

伊賀地域
高等学校活性化説明会

第1回　平成24年11月20日(火)19:00～21:00
名張市防災センター2階防災研修室
第2回　平成24年11月24日(土)19:00～21:00
県伊賀庁舎7階大会議室

三重県教育委員会

1

目　次

1　平成24年3月までの伊賀地域の県立高等学校活性化
　についての協議と「協議のまとめ」

2　本年5月に開催した説明会で
　　出された意見の概要

3　本年度の協議会における協議
　新しい学校の学校像、統合の年度等

4　今後の進め方

2

1　平成24年3月までの伊賀地域の県立高等学校活性化についての協議と「協議のまとめ」

3

協議会とは・・・

○　県教育委員会が設置

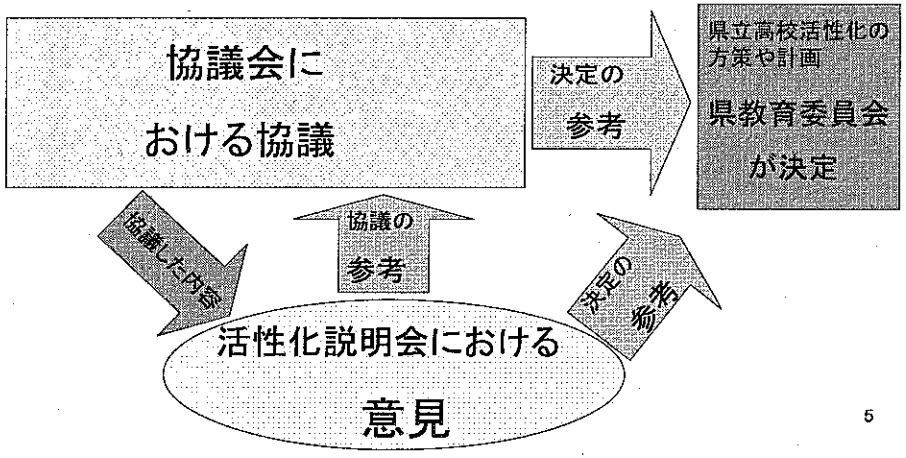
○　各地域の県立高校の活性化を推進するにあたって、
地域の皆様からの意見を参考としていくため。

○　委員構成は、
地域の有識者、PTA関係者、市教育委員会教育長、
小中学校長代表、県立学校長代表、教員代表

○　伊賀地域では、
伊賀地域高等学校活性化推進協議会を設置

4

協議会での協議から
県立高校活性化の方策や計画の決定まで



5

伊賀地域における高等学校活性化の協議

平成16年度

○「伊賀地域における高等学校のあり方検討拡大協議会」を設置、6回協議

平成17年度 ・ 平成18年度

○「伊賀地域高等学校再編活性化推進拡大協議会」を開催、5回協議

○「協議のまとめ」(平成18年9月)

・ 新総合専門高校を設置する → 平成21年度 伊賀白鳳高校開校

6

伊賀地域における高等学校活性化の協議

平成20年度 ・ 平成21年度

○「伊賀地域高等学校再編活性化推進協議会 名張分科会」を開催
名張地域の高等学校の活性化策を検討

平成22年度 ・ 平成23年度

○「伊賀地域高等学校再編活性化推進協議会」を開催 7回協議
(協議内容)
・ 伊賀地域におけるこれまでの高等学校再編活性化の検証
・ 伊賀地域の高等学校の今後のあり方

○「協議のまとめ」(平成24年3月)

7

平成22・23年度
伊賀地域高等学校再編活性化推進協議会

今後の伊賀地域の高等学校のあり方の検討

平成27年度に中学校卒業者数が大きく減少
↓
現在の学校数を維持すると、
1学年3～4学級の小規模な高校ができる
・・・活性化がむずかしい

(教員数・生徒数が少なくなるため)
・ 多様な選択科目が設置できない
→進学希望に十分対応することが困難
・ 部活動の数が少なくなる。活発に活動しにくい など

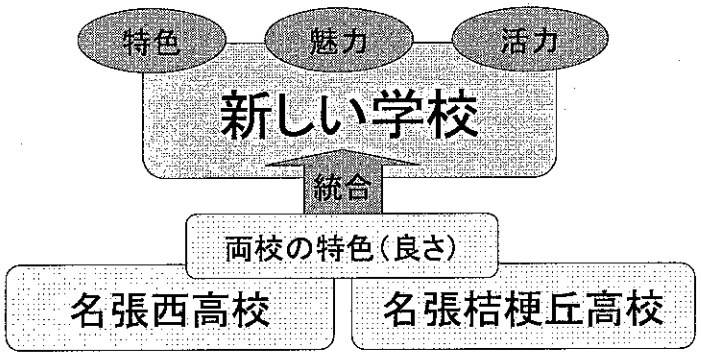
8

平成24年3月の「協議のまとめ」

学校が小規模となって活力を失わないように

学習内容や進路状況等に共通点が多い2校を

平成27年度を目途に1校に統合



9

2　本年5月に開催した説明会で出された意見の概要

10

平成24年5月　伊賀地域高等学校活性化説明会

○ 開催日時・会場・参加者数

5月15日（火）　19:00～21:00　名張市役所　　参加者　約190人

5月19日（土）　14:00～16:00　名張市役所　　参加者　約150人

5月22日（火）　19:00～21:00　県伊賀庁舎　　参加者　約 90人

※　このほかにも、PTAや市議会等の求めに応じて開催

○ 説明内容

- 協議会における協議の状況
- 伊賀地域の高等学校を取り巻く状況
- 平成24年3月の「協議のまとめ」　など

11

説明会での主な意見

- 平成27年度の統合は急すぎる。
- 新しい学校のイメージを早く発表してほしい。
- 新しい学校のイメージづくりは、広く意見を聴きながら進めてほしい。
- 伊賀地域から多数の生徒が他地域へ進学しなくてもいいような高校をつくってほしい。
- 統合して新しい学校が設置されない方の高校に在籍することになる生徒への対応を考えてほしい。

12

3　本年度の協議会における協議
新しい学校の学校像、統合の年度等

13

平成24年度伊賀地域高等学校活性化推進協議会

第1回の協議会で確認した主な内容

- 引き続き、協議会の「協議のまとめ」（平成24年3月）をベースに、名張桔梗丘高校と名張西高校の統合による活性化を進めていく。
- 統合の「学校像、時期、設置場所」については、平成24年度末までに明らかにする。
- 中学生の進路選択が円滑かつ適切に行えるよう、統合の「時期」の基本的な考え方を、「学校像、設置場所」の検討状況を踏まえて、平成24年8月末までに示す。

14

「統合の時期」についての検討（平成24年8月）

（第2回協議会）

平成27年度の統合に
賛　成

平成27年度の統合に
反　対

県教育委員会で
判断

現中学校3年生が安心して進路選択できることを重視して、平成27年度の統合は行わない。

中学校卒業者の減少に伴い学校が小規模になると、学校の活力が失われるため、できる限り早い統合が必要。

15

名張地域の新しい高等学校の学校像の検討

背　景
- 名張地域の高校の現状
- 社会の動向　など

伊賀地域の各高校のあり方

検　討

学　校　像
- 生徒に育みたい力
- 学校の特色
- 教育活動
- 設置する学科
- 学校の位置づけ

など

16

背景1

○　国公立大学等への進学希望に
　十分に応えていない。

・・・津地域の高校や県外の私立高校に進学する生徒が少なくない
現状があり、他地域に進学しなくてもよい学校づくりを・・・

↓

○　進学に特化した学科またはコースを設置し、
　進学に対応するカリキュラムを編成

17

背景2

○　名張桔梗丘高校と名張西高校では
　関西地方の私立大学への進学希望が多い。

・・・短期大学、専門学校への進学、就職を希望する生徒も

↓

○　多様な進路希望に対応できるカリキュラム
　（単位制の導入）

○　学習効果をあげるための習熟度別学習

18

背景3

○　社会の動向
　経済のグローバル化、情報化社会の進展

・・・教育分野で語学力の向上やICTの利活用が十分進んでいない

↓

○　グローバル化への対応 → 英語運用能力の向上
（校内オールイングリッシュタイム導入、海外語学研修実施など）

○　情報化への対応 → ICTの利活用能力の育成
（1人1台タブレットPCの活用による学習活動など）

19

背景4

○　自らの将来を切り拓く力、適切にコミュニ
　ケーションをとる力が不十分な生徒
　増加する傾向

↓

○　「未来を拓く力」の育成
　・・・　キャリア教育の充実

○　「人とつながる力」の育成
　・・・　人間力の育成、コーチングの活用

20

名張新高校が育む3つの力［素案］

～新時代をたくましく生き抜く未来人の育成～

未来を拓く力

自己実現・進路実現を図ることができる力の育成

広い視野とコミュニケーションスキルを持ち、将来、社会や世界で活躍できる力を持った生徒を育てます。

グローバル化社会で活躍する力

グローバルな視点で意思決定・意思疎通を行い、情報を利活用できる力の育成

人とつながる力

他者と相互に理解し合えるコミュニケーション力、社会に参画できる力の育成

21

2校が統合して、新しい高校が開校するのは・・・

多数意見

○ 少子化が進み、学校が小規模となる中で、生徒たちがいきいきと学び続けられる学習環境を保証するためには、できるだけ早い平成28年度とすべきである。

学校が小規模になると・・・

教員数・生徒数が少なくなるため

・ 多様な選択科目が設置できない
　→進学希望に十分対応することが困難

・ 部活動の数が少なくなる。活発に活動しにくい　など

→ できるだけ早く新しい学校を開校すべき

23

25

名張新高等学校概要［素案］

～新時代をたくましく生き抜く未来人の育成～

〈新しい学校のコンセプト〉

○「未来を拓く力」を育成します。
○「グローバル化社会で活躍する力」を育成します。
○「人とつながる力」を育成します。

単位制

進学に特化した学科または普通科のコース（1学級程度）

国公立大学（文系・理系）等へ進学するための学力の育成を通じて、将来、司法・行政・教育などから医療に至る幅広い分野で専門職として活躍する資質や地元で活躍する人材を育成。

普通科（6～7学級程度）

多様な選択科目や習熟度別学習を通じて学習の成果を引き出し、四年制大学や短期大学、専修学校への進学等、幅広い進路希望に対応。

英語運用能力の育成	オールイングリッシュタイムの導入、海外語学研修
人とつながる力の育成	コーチングの活用、大学・地域等と連携したキャリア教育
情報利活用能力の育成	1人1台タブレットPCの活用、プレゼンテーション能力育成

人間力

あいさつの励行　人権教育の推進　部活動の活発化

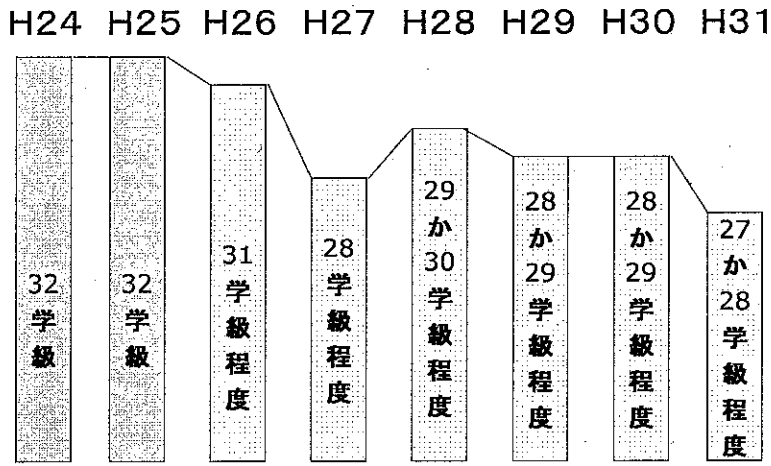
22

一部には次のような意見も・・・

○ 平成28年度は中学校卒業者数が一旦増加するので、学校像についてももう少し時間をかけるべきである。

24

伊賀地域全体の
高等学校の必要学級数（予測）



2校統合の年度についての
協議会のまとめ

少子化が進んで学校が小規模となる中、

- 生徒たちがいきいきと学び続けられる学習環境を保証することが必要
- 新しい学校像が決まれば早く実現していくべき

などの理由で、「できる限り早く」という意見が多数を占めた。

まとめ

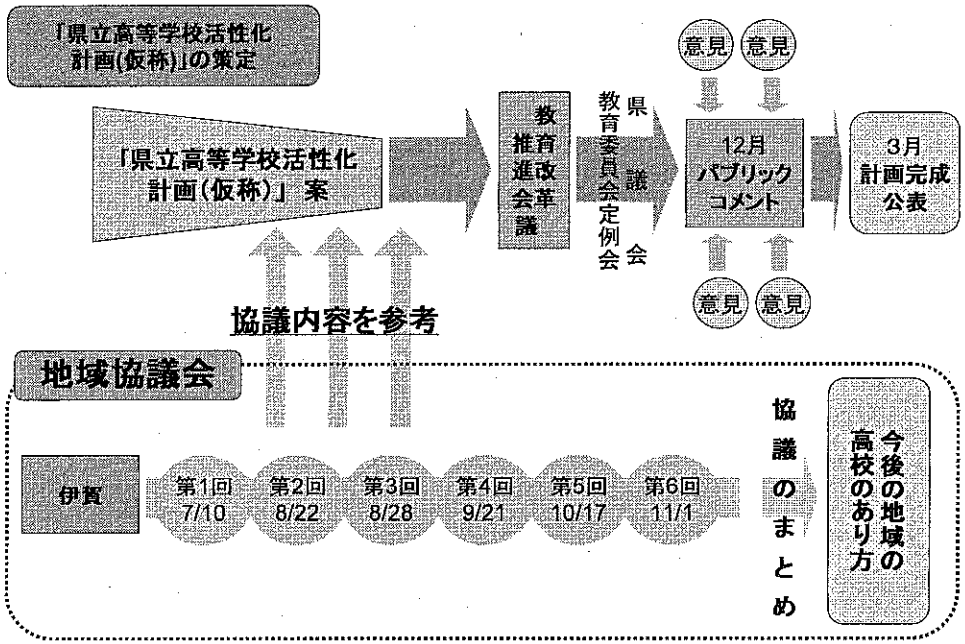
統合の年度は平成28年度とする

統合後の学校を設置する場所について

これまで出された意見

- 公共交通機関で通いやすい場所がよい
- 新しい学校の学校像を決定し、それが実現できる場所にする

4　今後の進め方


「県立高等学校活性化計画(仮称)」の策定
「県立高等学校活性化計画(仮称)」案
教育推進改革会議
県教育委員会定例会議
意見
意見
12月パブリックコメント
意見
意見
3月計画完成公表
協議内容を参考
地域協議会
伊賀
第1回 7/10
第2回 8/22
第3回 8/28
第4回 9/21
第5回 10/17
第6回 11/1
協議のまとめ
今後の地域の高校のあり方